

## 言語活動の充実を通して表現力を高める指導の工夫

大阪市立東粉浜小学校

研究部

### 1 はじめに

本校では、これまで、学校教育目標「生きる力を育み、豊かな人間性をもつ子どもを育てる」のもと、基礎学力を身につけながら健やかに成長し、たくましく心豊かに未来を切り拓く力を備える子どもの育成をめざして、教育活動を進めてきた。児童が豊かな心を持ち、互いに高めあって集団生活を送るためには、確かな学力の基盤となる言語能力を育成し、習得した知識を活用して問題解決の方法を探り、自分の考えをわかりやすく表現するコミュニケーション能力を身につけさせることが重要である。

一・二年次を通し研究主題を「言語活動の充実を通して表現力を高める指導の工夫」とし、各教科、領域等の授業において児童の言語能力の育成を図るための指導方法の工夫、また各教科、領域等の特性に応じた言語活動のあり方等、効果的な指導方法を追究した。

その結果、「言語活動を取り入れた授業の工夫や他教科との関連を意識した授業づくり」「教材教具・場の工夫による児童の言語に対する意識の向上や学び合い」「言語環境の整備」等の一応の成果は得られた。しかし、「書く活動における言葉の精選・的確な活用力」「相手意識・目的意識を明確にした『話す』『聞く』『話し合う』力を高める手立て（言語活動の焦点化）」「交流方法の工夫・言語環境の充実」等の課題が残った。

そこで、三年次にあたる本年度は、これまでの研究をさらに継続し発展させ、各教科、領域等における「さらなる言語活動の充実」や「確かな学力を支える言語能力」の具現化を目指し、授業実践の積み上げを図りたいと考え、本主題のもとに研究を進めることとした。

### 2 研究の概要

読書環境を整えるとともに、教科・領域の特性を大切にしながら、自分の言葉でしっかり表現できる力を伸ばしていくために各学年の目標を設定し取り組んだ。

#### ◇基本的な考え

- 自分で考えをもち、話したり書いたりすることで、思考を言語化する。
- 相手意識をもって、わかりやすく伝え合い、聞き合う。
- お互いを認め合いながら、集団の考えを発展させ、活用する。

言語活動における学年のめあてから、「話し合い活動」におけるめあてを設定し、次の３点を柱として研究を進めた。

### **(1) 思考を深め表現を豊かにする言語活動（話し合い活動）**

- ・ペア対話、グループ交流を基に全体交流へつなげる。
- ・話し合い方の指導（話型・話し方、聞き方の基本）

### **(2) 自分の考えを持つための書く活動**

- ・ノートやワークシートの活用
- ・新聞づくり（3年生以上）

### **(3) 言語環境を整える工夫**

- ・掲示物の作成
- ・図書館の整備や図書館利用の充実

## **3 研究のまとめ**

### **(1) 研究の成果**

- 話し合い活動について、話型を定着させ、少人数から全体への交流へと広げていくことによりいろいろな考えがあることに気づくことができた。思考を深め、幅広い視点を持たせるための効果的な手立てとなった。そして、既習の学習内容と結び付けて、友だちの意見を踏まえたうえで自分の考えや意見を発表することができ。
- 書く活動について、各学年の実態に応じて、教材を細分化したワークシートを活用したり、メモを取りながら友だちの意見を聞いたりすることで、自分の考えを吟味し、発表するときの手立てとなった。また、新聞づくりを通して、要旨をまとめたり自分の伝えたいことをまとめることができた。
- 言語環境を整える工夫について、教科の内容に応じて、具体物を提示したり具体物を操作する活動を取り入れたりすることで、自分の考えを「図」「表」「式」「文」をつかって言語化することができた。また、読書環境を充実させることで活字にふれる機会を多くし、語彙を増やすことに努めた。

### **(2) 今後の課題**

- 話し合い活動をさらに深めていくには、児童一人一人が「見通し」をもち、自分の考えを明確にして参加することが大切であると考え。その手立てとして、学習計画に応じたワークシートを準備したり、授業の中でポイントとなる児童の発言を取り上げ、タイミングよく助言したりしていく必要がある。
- 発表の際、話型のみならず、声量や話す速さ、顔の表情や動作などについて考えさせ、相手意識・目的意識をもった話し合いができるようにしていく。
- さまざまな学習活動の中で、「読む」「書く」「話す」「聞く」のサイクルを構築し、言語活動の充実を図る。